

2021年度第1四半期決算説明資料

発表日時：2021年7月29日（木）15:30（今回、説明会の開催はございません）

【2021年度第1四半期連結決算の概要】

- まず、パワーポイントのスライド1をご覧ください。
- 今回の決算のポイントです。売上高は、新会計基準の適用に加え、小売販売電力量や燃料費調整額の減少などにより減収となりました。
- 経常損益・四半期純損益は、グループ全社を挙げた継続的なコスト削減に努めたものの、JERAにおいて、燃料費調整制度の期ずれ影響が悪化したことや、小売販売電力量が減少したことなどにより減益となりました。
- なお、2021年度業績予想については、2021年7月21日にお知らせした内容から、変更はありません。
- 具体的な連結決算の数字については、スライド2をご覧ください。
- 売上高は、前年同期比26.9%減の9,800億円と「減収」、経常損益も73%減の184億円と「減益」となり、特別損益を加えた四半期純損益は、前年同期比328億円減の30億円の「損失」となりました。

【セグメント別のポイント】

- スライド4と5では、各セグメント別の業績をご説明いたします。
- まず、東京電力ホールディングスの業績です。
- 売上高は、東京電力エネルギーパートナーへの卸電力販売が減少したことなどにより、前年同期比119億円減の1,172億円となりました。
- 経常損益は、基幹事業会社からの受取配当金の増加などにより、前年同期比471億円増の1,267億円となりました。

- 次に、東京電力フュエル&パワーの業績です。
- 経常損益は、JERAにおいて、燃料費調整制度の期ずれ影響が悪化したものの、発電事業の収支が好転したことや、関係会社利益が増加したことにより、前年同期比208億円増の301億円となりました。

- 続いて、東京電力パワーグリッドの業績です。
- 売上高は、託送収益が減少したことなどにより、前年同期比 14 億円減の 4,093 億円となりました。
- 経常損益は、託送収益の減少や、設備関係費の増加などにより、前年同期比 60 億円減の 346 億円となりました。

- 続いて、東京電力エナジーパートナーの業績です。
- 売上高は、新会計基準の適用や、燃料費調整額の減少などにより、前年同期比 3,910 億円減の 8,084 億円となりました。
- 経常損益は、小売販売電力量が、競争激化や気温の影響で減少したことなどにより、前年同期比 487 億円減の 374 億円の損失となりました。

- 最後に、東京電力リニューアブルパワーの業績です。
- 売上高は、卸電力販売などの増加により、前年同期比 11 億円増の 410 億円となりました。
- 経常損益は、固定資産税の増加などにより、16 億円減の 161 億円となりました。

- なお、連結およびセグメント別の前年同期比較資料をスライド 11 以降に参考として添付しております。

【連結特別損益の概要】

- 連結特別損益については、スライド 6 をご覧ください。
- 特別損失は、原子力損害賠償費として、206 億円を計上いたしました。
- これにより、特別損益は、前年同期比 159 億円増の 206 億円の損失となりました。

【連結売上の変動要因】

- 連結売上の変動要因である「新会計基準の適用による影響」について、スライド 7 をご覧ください。
- 売上高は、「収益認識に関する会計基準」等の適用に伴い、再エネ特措法交付金と、電気料収入に含まれていた再エネ賦課金相当額を売上高に計上しない方法に変更したことなどから、前年同期比 2,654 億円の減少となりますが、同時に費用も減少するため、収支影響はございません。
- なお、変更の概要については、スライド 18 にも記載しております。

【連結財政状態の概要】

- 連結財政状態について、スライド8をご覧ください。
- 自己資本比率は、前年度末より 0.3 ポイント改善し 26.1%となりました。これは、四半期純損益が赤字であったものの、純資産残高が増加し、資産・負債残高が減少したことなどによるものです。

【2021 年度業績予想のポイント】

- 最後に、2021 年度の業績予想についてスライド9 と 10 をご覧ください。
- 2021 年度業績予想及び主要諸元については、2021 年7月21 日にお知らせした内容から変更はありません。
- 足元では、特別損益などの影響もあり、四半期純損益は30 億円の「損失」となりましたが、年度末ではお示しした通りの利益を確保する見通しです。

【参考資料、補足資料】

- 参考資料および補足資料も添付しておりますので、ご覧ください。

以 上